

日本における実母のソーシャルサポートが産後うつ病へ与える影響に関する研究

著者	菊地 紗耶
号	81
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	医博第2983号
URL	http://hdl.handle.net/10097/62174

氏 名	きくち さや 菊地 紗耶
学 位 の 種 類	博士（医学）
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 27 日
学位授与の条件	学位規則第 4 条第 1 項
研 究 科 専 攻	東北大学大学院医学系研究科（博士課程）医科学専攻
学位論文題目	日本における実母のソーシャルサポートが産後うつ病へ与える影響に関する研究
論文審査委員	主査 教授 松岡 洋夫 教授 齋藤 秀光 教授 佐藤喜根子

論文内容要旨

妊娠・出産・育児は女性にとって大きなライフイベントであり、産後には約 13%の女性がうつ病を発症するといわれている。産後うつ病は、個人が元々持っている心理的特徴やコーピングの取り方の傾向に、出産というライフイベントの心理的、身体的、社会的な影響が加わって起こると考えられるが、ソーシャルサポートのあり方はその成因を左右する要因として注目される。ソーシャルサポートの中でも本邦は実母が身の回りの世話をする実質的なサポートを受けて出産することが多く、諸外国に比べて実母によるソーシャルサポートが大きな要因として考えられる。実質的なサポートに加え、実母が話を聞いてくれ、理解をしてくれていると感じているかなどの心理的サポートも重要な要因と考えられる。心理的サポートの背景には、妊婦の幼小児期の実母の養育のあり方が関係することが想定され、この養育のあり方は妊婦の出産、育児の過程に投影されるなどの影響があると考えられる。本研究では、産婦の心理的特徴、コーピングスタイルや実母の実質的サポート、心理的サポートの産後うつ症状への影響の大きさを評価すること、次に、実母の産婦への養育の要因が実母の実質的サポート、心理的サポートに及ぼす影響と産後うつ症状に及ぼす影響を評価することを目的とした。

研究 I では、宮城県立こども病院にて分娩を行った 178 名を対象として、実母のサポートと性格傾向およびコーピングスタイルが産後のうつ症状に与える影響について検討した。その結果、産後 5

日目には 25.2%、産後 1 ヶ月には 8.9%がうつ症状を呈した。77.1%が実母からの心理的なサポートがあると回答し、61.0%が実母からの実質的サポートがあると回答した。また、実母の実質的サポートはあるが、心理的なサポートはないという群が 10 名 (8.1%) みられた。産後 1 ヶ月のうつ症状を従属変数として行った重回帰分析の結果、神経症傾向、情動優先コーピング、実母の実質的サポートがないこと、妊娠経過の異常が、産後 1 ヶ月のうつ症状に有意に関連していた。この結果より、実母の実質的サポートは産後のうつ症状の出現を少なくする可能性が考えられた。

研究 I より、産後のうつ症状について、実母のサポートがうつ症状の出現を少なくすること、性格傾向やコーピングといった個人の心理的特性の関与が大きいことの 2 点が明らかとなった。そこで研究 II では、個人の心理的特性の影響が大きい集団においても、実母のサポートが産後うつ症状の出現を少なくするのか、加えて実母からの被養育体験を詳細に検討することを目的に、妊娠中から既に何らかの心理的問題を抱えた産後うつ病ハイリスク群である集団を対象を絞ることとした。

研究 II では、東北大学病院にて分娩を行い、妊娠中より心理的支援を受けている 75 名を対象として、妊娠中に、実母のサポート状況に加え、実母による養育体験について聴取し、産後 1 ヶ月におけるうつ症状への影響を検討した。その結果、研究 I 同様、約 7 割のものが実母による実質的サポート、心理的サポートの各々があると回答した。研究 II では、実母のサポートがある場合、産後 1 ヶ月におけるうつ症状の出現を少なくするものの、実母のサポートがない場合のうつ得点と比べて有意差はみられなかった。そこで、更に、実母の実質的サポートがあると回答したものを、うつ群と非うつ群に分類し、それぞれの養育体験について検討を行った。その結果、うつ群においては、非うつ群に比べ、実母によるケア得点が低い傾向と、過干渉得点が高い結果が得られた。うつ群の 41.2%が低いケアと高い過干渉を特徴とする「愛情欠損型統制」の好ましくない被養育経験を有していることが明らかになった。

以上より、実母の実質的サポートは産後 1 ヶ月のうつ症状の出現を少なくする可能性が考えられるが、実母による養育体験が、高いケアと子供の自立性を尊重する「最適な養育」である場合には、産後 1 ヶ月のうつ症状の出現が少なくなり、低いケアと高い過干渉を特徴とする「愛情欠損型統制」である場合には、産後のうつ症状の出現が増加する可能性が示唆され、単に実母による実質的サポートの有無だけでなく、実母からの被養育体験の質がうつ症状に関連するといえる。

審 査 結 果 の 要 旨

博士論文題目 日本における実母のソーシャルサポートが産後うつ病へ与える影響に関する研究

所属専攻・分野名 医科学専攻・精神神経学分野

学籍番号 氏名 菊地紗耶

妊娠・出産・育児は女性にとって大きなライフイベントであり、産後には約 13%の女性がうつ病を発症するといわれている。産後うつ病は、個人が元々持っている心理的特徴やコーピングの取り方の傾向に、出産というライフイベントの心理的、身体的、社会的な影響が加わって起こると考えられるが、ソーシャルサポートのあり方はその成因を左右する要因として注目される。ソーシャルサポートの中でも本邦は実母が身の回りの世話をする実質的なサポートを受けて出産することが多く、諸外国に比べて実母によるソーシャルサポートが大きな要因として考えられる。実質的なサポートに加え、実母が話を聞いてくれ、理解をしてくれていると感じているかなどの心理的サポートも重要な要因と考えられる。心理的サポートの背景には、妊婦の幼小児期の実母の養育のあり方が関係することが想定され、この養育のあり方は妊婦の出産、育児の過程に投影されるなどの影響があると考えられる。本研究では、産婦の心理的特徴、コーピングスタイルや実母の実質的サポート、心理的サポートの産後うつ症状への影響の大きさを評価すること、次に、実母の産婦への養育の要因が実母の実質的サポート、心理的サポートに及ぼす影響と産後うつ症状に及ぼす影響を評価することを目的とした。

研究Ⅰでは、宮城県立こども病院にて分娩を行った 178 名を対象として、実母のサポートと性格傾向およびコーピングスタイルが産後のうつ症状に与える影響について検討した。その結果、産後 5 日目には 25.2%、産後 1 ヶ月には 8.9%がうつ症状を呈した。77.1%が実母からの心理的なサポートがあると回答し、61.0%が実母からの実質的サポートがあると回答した。また、実母の実質的サポートはあるが、心理的なサポートはないという群が 10 名 (8.1%) みられた。産後 1 ヶ月のうつ症状を従属変数として行った重回帰分析の結果、神経症傾向、情動優先コーピング、実母の実質的サポートがないこと、妊娠経過の異常が、産後 1 ヶ月のうつ症状に有意に関連していた。この結果より、実母の実質的サポートは産後のうつ症状の出現を少なくする可能性が考えられた。研究Ⅰより、産後のうつ症状について、実母のサポートがうつ症状の出現を少なくすること、性格傾向やコーピングといった個人の心理的特性の関与が大きいことの 2 点が明らかとなった。そこで研究Ⅱでは、個人の心理的特性の影響が大きい集団においても、実母のサポートが産後うつ症状の出現を少なくするか、加えて実母からの被養育体験を詳細に検討することを目的に、妊娠中から既に何らかの心理的問題を抱えた産後うつ病ハイリスク群である集団を対象を絞ることとした。

研究Ⅱでは、東北大学病院にて分娩を行い、妊娠中より心理的支援を受けている 75 名を対象として、妊娠中に、実母のサポート状況に加え、実母による養育体験について聴取し、産後 1 ヶ月におけるうつ症状への影響を検討した。その結果、研究Ⅰ同様、約 7 割のものが実母による実質的サポート、心理的サポートの各々があると回答した。研究Ⅱでは、実母のサポートがある場合、産後 1 ヶ月におけるうつ症状の出現を少なくするものの、実母のサポートがない場合のうつ得点と比べて有意差はみられなかった。そこで、更に、実母の実質的サポートがあると回答したものを、うつ群と非うつ群に分類し、それぞれの養育体験について検討を行った。その結果、うつ群においては、非うつ群に比べ、実母によるケア得点が低い傾向と、過干渉得点が有意に高い結果が得られた。うつ群の 41.2%が低いケアと高い過干渉を特徴とする「愛情欠損型統制」の好ましくない被養育経験を有していることが明らかになった。

以上より、実母の実質的サポートは産後 1 ヶ月のうつ症状の出現を少なくする可能性が考えられるが、実母による養育体験が、高いケアと子供の自立性を尊重する「最適な養育」である場合には、産後 1 ヶ月のうつ症状の出現が少なくなり、低いケアと高い過干渉を特徴とする「愛情欠損型統制」である場合には、産後のうつ症状の出現が増加する可能性が示唆され、単に実母による実質的サポートの有無だけでなく、実母からの被養育体験の質がうつ症状に関連するといえ、日本における実母のソーシャルサポートが産後うつ病に与える影響が明らかになった。よって、本論文は博士（医学）の学位論文として合格と認める。